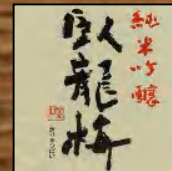


『臥龍梅』 歳便り

平成二十一年睦月



皆様 明けましておめでとうございます。今年のお正月は如何お過ごしでしたでしょうか。昨年以来、100年に一度の大不況とかで、新聞を開けば減産やら失業やら暗い話題ばかりです。臥龍梅は、発売以来、優れた品質の商品をリーズナブルな価格で提供することをモットーとしてまいりました。今こそ品質本位の臥龍梅の真価が評価される時と言えます。不況の時代を乗り切るための戦略商品として臥龍梅をお役立てください。

正月の3日、蔵人を伴い市内観光を兼ねて初詣に出かけました。向かった先は、羽衣伝説で有名な観光名所、三保の松原です。ご存知ない方にざっと説明いたしますと、「その昔、三保の松原の松の枝に美しい衣が掛かっていました。漁夫がそれを持ち帰ろうとすると天女が現れ、返してくれと言います。断ると天女が嘆き悲しむので、舞を見せることを条件に羽衣を返したところ、天女は舞を踊りながら天に上って行ってしまいました」というものです。日本各地に同様の伝説が残されておりますが、海岸線に茂る5万4千本の松林と、天女が舞い降りたと伝えられる樹齢約650年の「羽衣の松」、それに富士山は一見の値打ちがあります。海岸を散策した後、「神の道」と呼ばれる松と松の間を続く長い道を通って「美穂神社」に向かい、拍手を打って醸造祈願をいたしました。

さて、いささか遅いご報告となりますが、昨年11月29日、菅原杜氏と二人で兵庫県西脇市へ出張してきました。汚染米事件以来、米の流通の信頼性に疑問がもたれておりますが、当社では優良な原料米の確保に万全を期すべく、一部を現地の契約農家から直接調達することにしました。まずは兵庫県産山田錦のなかでも高精白で使用する分からです。その日は西脇市の生産者を訪問して玄米を検分し、トラックへの積み込みに立ち会いました。造りで忙しい最中ではありましたが、圃場の環境や生産者の人となりも知りたいという希望から、杜氏を帯同しました。行ってみると圃場は寒暖差の大きな山間にあり肥沃な黒土の土質です。玄米を見るとなかなかの出来具合で、35%精米で使用する旨を伝えてあったので、心白も高精白に適した大きさに栽培されております。積み込みが終わった後、近くを案内してもらいましたが、この西脇市はなんと山田錦発祥の地なのだそうです。どうりで圃場が山田錦生育に理想的な環境の筈です。今、そのお米を使った吟醸酒の**もと**を杜氏が大切に育てております。今年のお臥龍梅の大吟醸をご期待ください。



美穂神社にて



三保の松原「羽衣の松」にて



山田錦発祥の里にて



今月は、お待ちかね**短稈渡船 55%の純米吟醸袋吊雫酒**に加えて**日本晴れ 60%の純米原酒**をご案内いたします。この味と香りでの価格、自信を持ってお勧めする抜群のコストパフォーマンスの**純米原酒**を是非ともお取り扱いアイテムにお加えください。

厳しい寒さの中、皆様ますますお健やかに。

平成21年1月吉日

敬具

鈴木克昌